

中小企業景況調査報告書

平成30年7月～9月期実績 / 平成30年10月～12月期見通し

平成 30 年 10 月

宮 崎 県 商 工 会 連 合 会

中小企業景況調査要領

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、全国商工会連合会が中心となり、昭和54年度から四半期ごとに全国一斉に実施しているものです。本県分の調査結果は次のとおりです。

1. 調査対象期間

平成30年7月～9月期を対象とし、調査は平成30年8月22日から平成30年9月1日の間に実施しました。なお、平成30年10月～12月期は予測値となります。

2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問面接調査により実施。

3. 対象地区

須木、西米良村、宮崎市生目、佐土原町、山田町、高崎町、木城町、諸塚村、国富町、高千穂町の10商工会地区。

4. 回答企業数

150企業のうち、146企業の回答を得た(有効回答率97.3%)。

業種	調査対象企業数(%:構成比)		有効回答企業数(%:構成比)		有効回答率(%)
製造業	25	16.7%	24	16.4%	96.0%
建設業	22	14.7%	21	14.4%	95.5%
小売業	44	29.3%	42	28.8%	95.5%
サービス業	59	39.3%	59	40.4%	100.0%
合計	150	100.0%	146	100.0%	97.3%

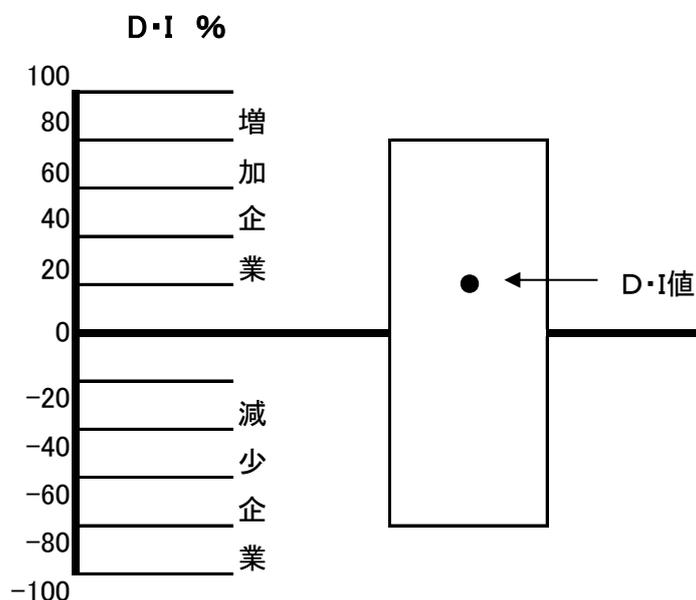
5. その他

(1) D・I

この報告書の中で、「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。これは企業経営者の景気動向を表わす指標として利用されています。算出方法は、今期と前期、今期と前年同期、あるいは今期と来期「見通し」との比較を行い、増加(上昇・好転)企業の割合から減少(低下・悪化)企業等の割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気(楽観)、マイナスなら弱気(悲観) 原材料又は商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

例えば、売上高で(増加)企業40%、(不変)企業40%、(減少)企業20%の場合、D・Iは40(増加)－20(減少)＝20となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表わしています。

グラフで示すと下のようになります。



(2) 天気図

D・I値をお天気マークで表示

DI値	特に好調 $30 \leq DI$	好 調 $15 \leq DI < 30$	まあまあ $0 \leq DI < 15$	やや不振 $\Delta 15 \leq DI < 0$	不 振 $\Delta 30 \leq DI < \Delta 15$	きわめて不振 $DI \leq \Delta 30$
表示						
	晴	晴時々曇	うす曇	曇	曇時々雨	雨

I 全産業全体の状況

主要景気動向指数(D・I)

項目	平成29年	平成29年	平成30年	平成30年	平成30年	平成30年
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	前年同期	前々々期	前々期	前期	今期	来期見通し
売上高	▲ 9.0	▲ 18.4	▲ 8.5	▲ 8.5	▲ 11.9	▲ 9.4
採算	▲ 15.7	▲ 10.6	▲ 6.8	▲ 7.7	▲ 12.9	▲ 8.7
資金繰り	▲ 6.0	▲ 7.5	▲ 2.7	▲ 4.6	▲ 2.4	▲ 6.0
業況	▲ 4.3	▲ 7.9	▲ 4.7	▲ 1.2	▲ 9.9	▲ 2.5

いずれも前年同期と比較したもの。

<主要景況項目の概況>

◎売上高

今期(平成30年7月～9月)の売上高のD・Iは、▲11.9ポイントとなって、直前四半期の▲8.5より悪化した。全ての業種で悪化している。来期については▲9.4ポイントと今期よりも若干の改善を見込んでいる。

◎採算

採算のD・Iは、▲12.9ポイントとなっており、直前四半期の▲7.7ポイントより悪化している。製造業はほぼ横ばいであったが、建設業、小売業、サービス業では悪化した。来期については、▲8.7ポイントと改善を見込んでいる。

◎資金繰り

資金繰りのD・Iは、▲2.4ポイントで、直前四半期より悪化している。資金繰りについては、製造業、建設業、小売業では改善傾向を示しており、サービス業ではほぼ横ばいであった。来期について、全体で▲6.0ポイントであり、当期より悪化を見込んでいる。

◎業況

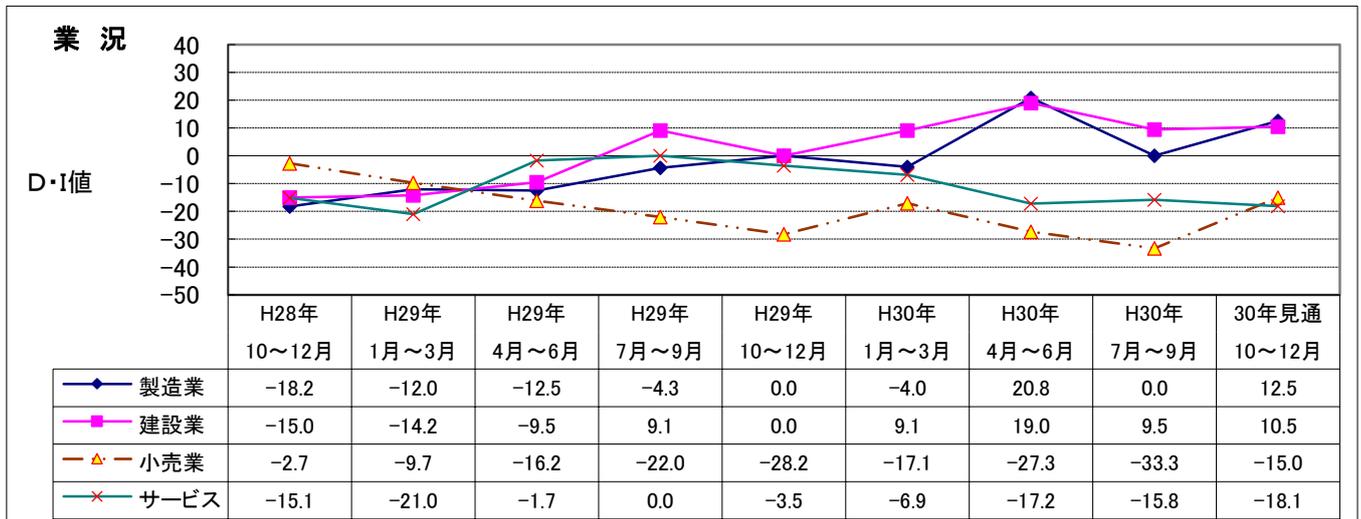
業況のD・Iは、▲9.9ポイントで、前期に比べて悪化している。来期は若干の改善を見込んでいる。

内閣府の30年9月発表の月例経済報告では、「景気は、緩やかな回復基調が続いている。各種政策の効果により、今後も緩やかな回復に向かうことが期待されるが、通商問題の影響が世界経済に与える影響、海外経済の不確実性や金融資本市場変動の影響に留意する必要がある。」としており、従来からの景気の基調判断に変更はない。日本銀行宮崎事務所の30年10月1日付の宮崎県金融経済概況では、「個人消費は底堅く推移している。観光は全体として堅調な動きである。住宅投資及び公共投資は横ばい圏の動き、生産は持ち直しを続けている。人手不足感は強い状況が続いている。」としており、人手不足の面が強調されている。基調判断としては、前回の判断と変更はない。今回の調査結果では、調査対象企業において全般的に業況の回復は見られないところである。

製造業	売上は悪化、採算はほぼ横ばい、資金繰りは改善という結果となった。次期の見通しは、売上、採算、資金繰りともに改善を見込んでいる。
建設業	資金繰りは改善したが、完成工事額と採算は悪化という結果になった。次期の見通しは、売上、資金繰りは悪化し、採算は横ばいを見込んでいる。
小売業	売上と採算は悪化し、資金繰りは改善という結果となった。次期は売上、採算は改善を予想しているが、資金繰りは悪化を見込んでいる。
サービス業	売上、採算は悪化、資金繰りはほぼ横ばいという結果となった。次期は売上、採算、資金繰りの全てで悪化を見込んでいる。

〈経営上の問題点について〉

製造業、建設業、小売業、サービス業共通して、「需要の停滞」が経営上の問題点として上位に位置付けられている点は従来の調査結果と変わりはない。今回の調査では、製造業、建設業、サービス業において「従業員の確保難」が上位に位置付けられおり、人手不足感が広まってきていることが注目される。最低賃金の引き上げもあり、今後、人の問題が重要になってくるものと思われる。

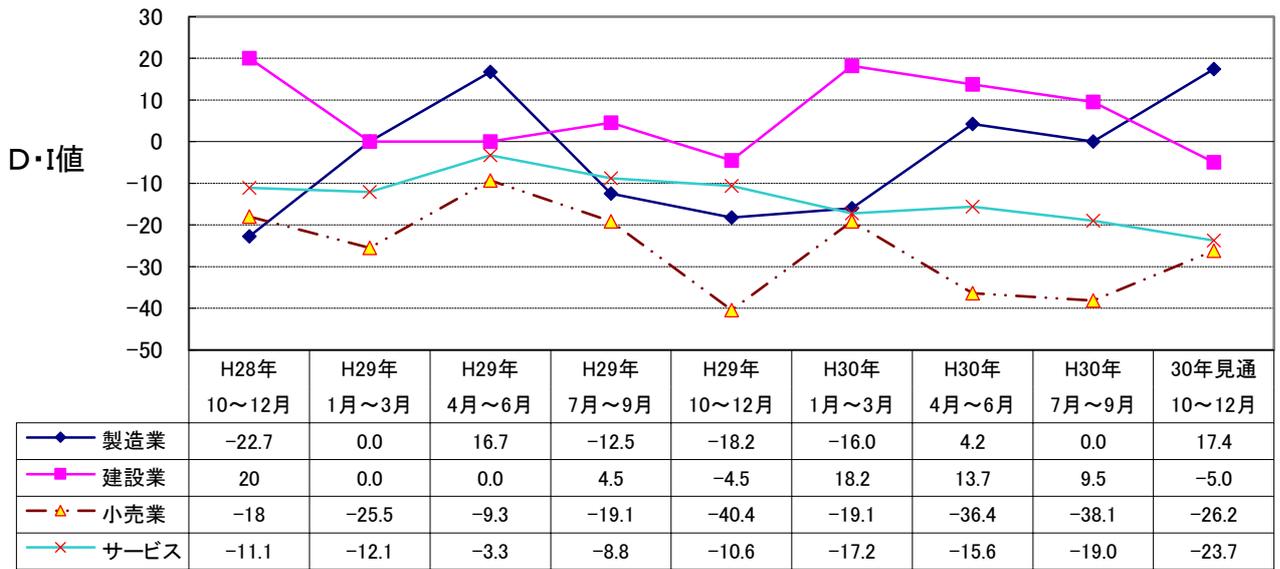


(業況天気図)

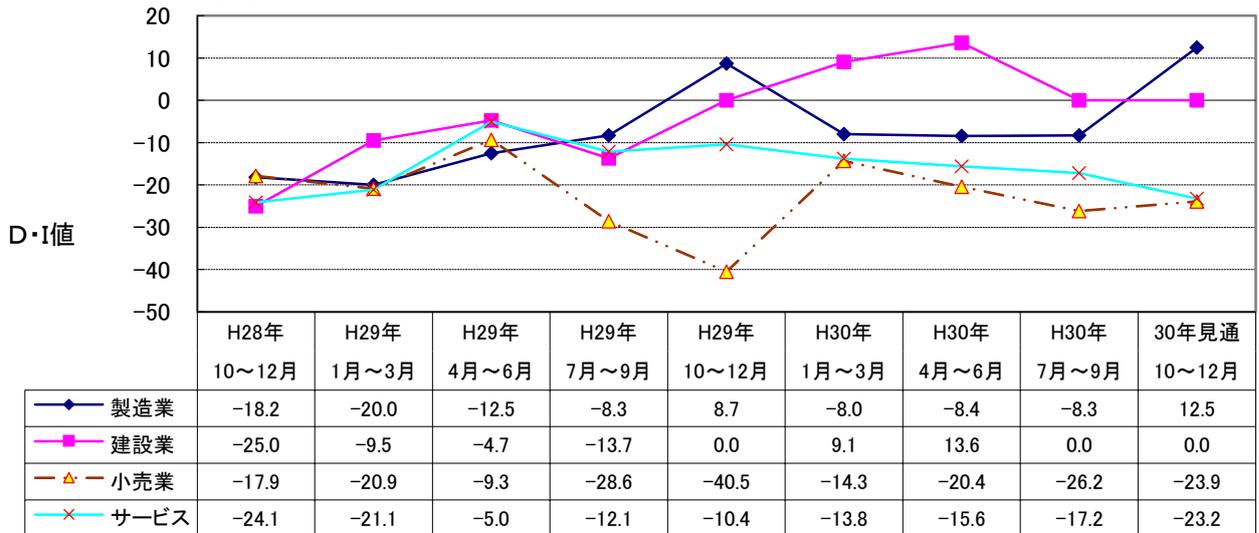
業種別	製造業	建設業	小売業	サービス業
7月から9月 実績	うす曇	うす曇	雨	曇時々雨
D・I値	0.0	9.5	▲ 33.3	▲ 15.8
10月から12月 見通し	うす曇	うす曇り	曇	曇時々雨
D・I値	12.5	10.5	▲ 15.0	▲ 18.1
傾 向	→	→	→	→

(注) 好転 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

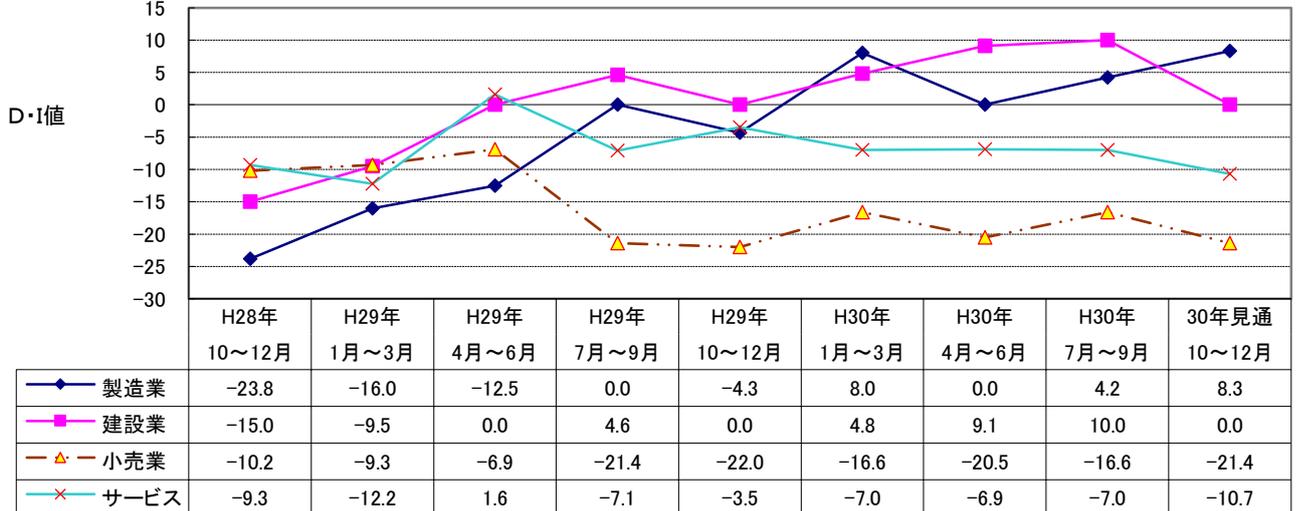
売上額(加工・完成)の推移



採算の推移(経常利益)



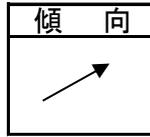
資金繰り



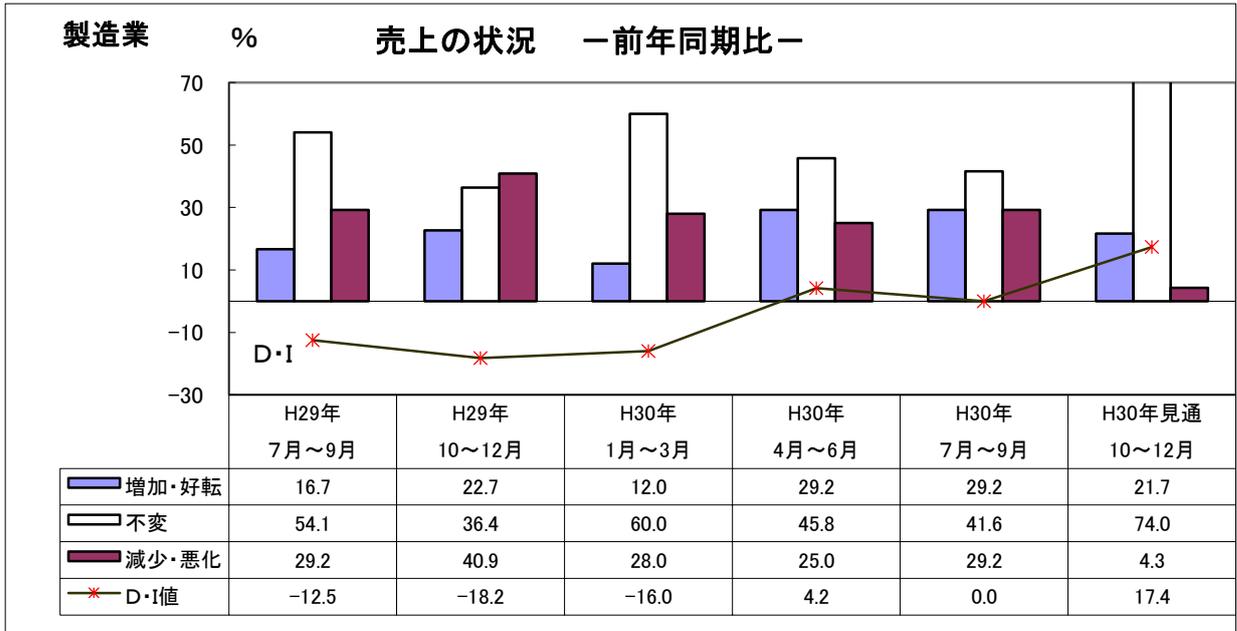
II 製造業の景況

(1) 売上(加工)額の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
	
うす曇	晴時々曇
0.0	17.4

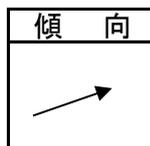


当期の売上高のD・Iは、「増加・好転」の企業は不変であったが、「減少・悪化」とする企業が増加したため、D・Iは0.0ポイントと、前期と比べて悪化している。次の四半期は「増加・好転」の企業が当期よりも減少するものの、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期より改善を見込んでいる。

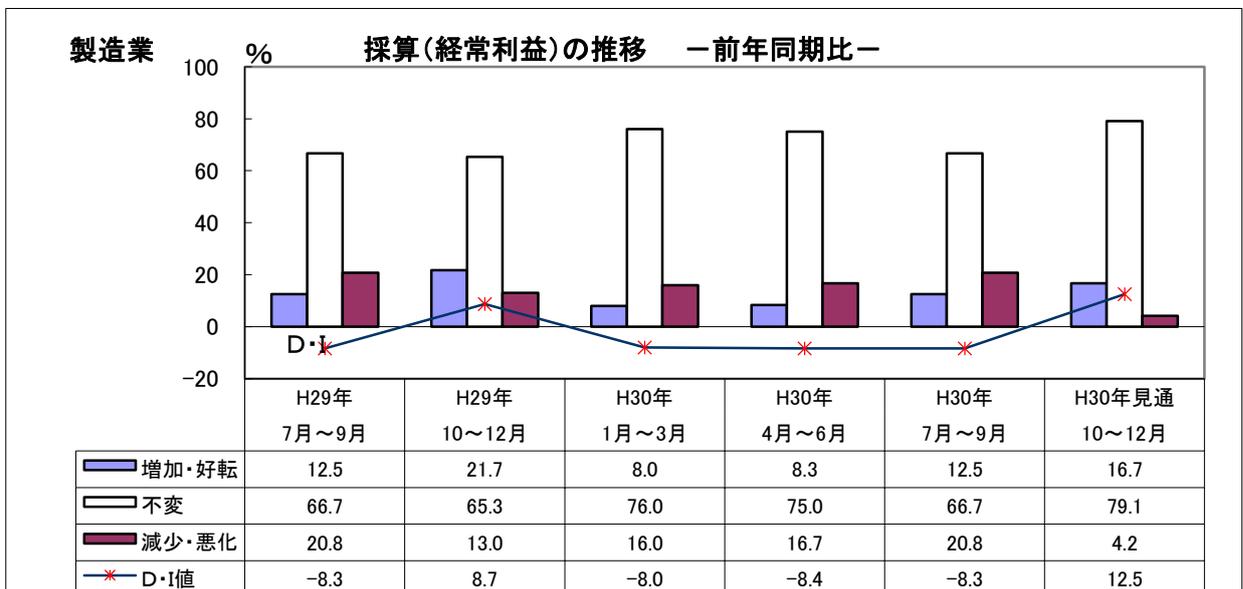


(2) 採算(経常利益)の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
	
曇	うす曇
▲ 8.3	12.5

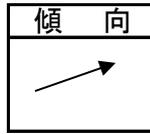


当期の採算のD・Iは、-8.3ポイントで、直前四半期の数値とほぼ横ばいである。「増加・好転」の企業、「減少・悪化」の企業がほぼ同じ割合で増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、当期から改善する予想となっている。

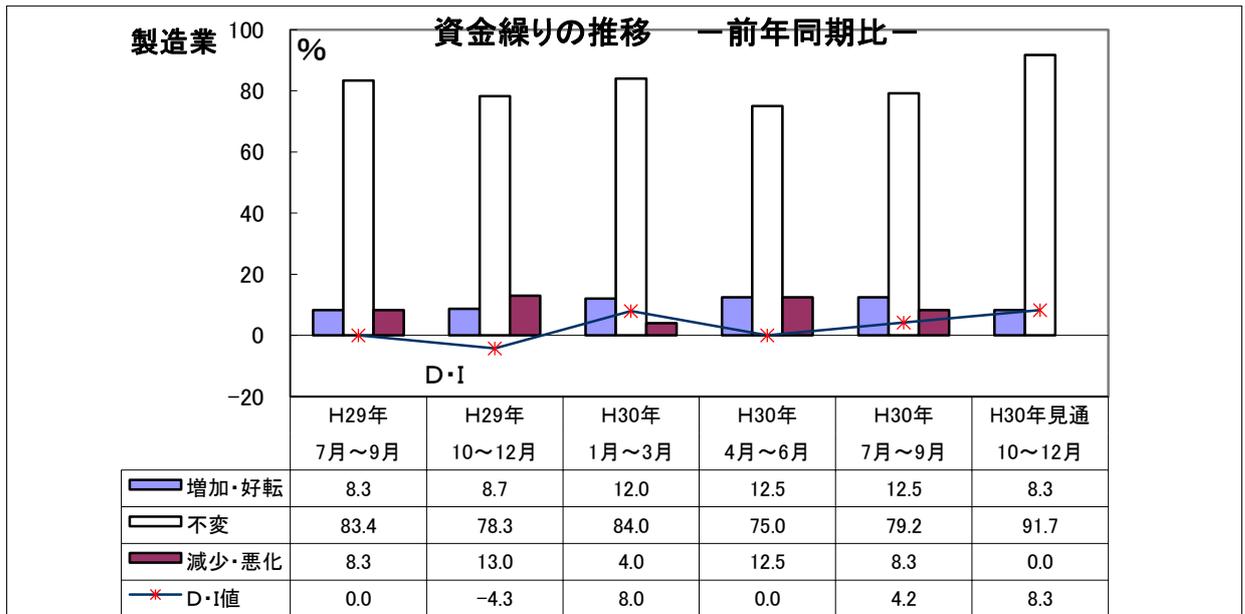


(3) 資金繰りの推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
うす曇	うす曇
4.2	8.3

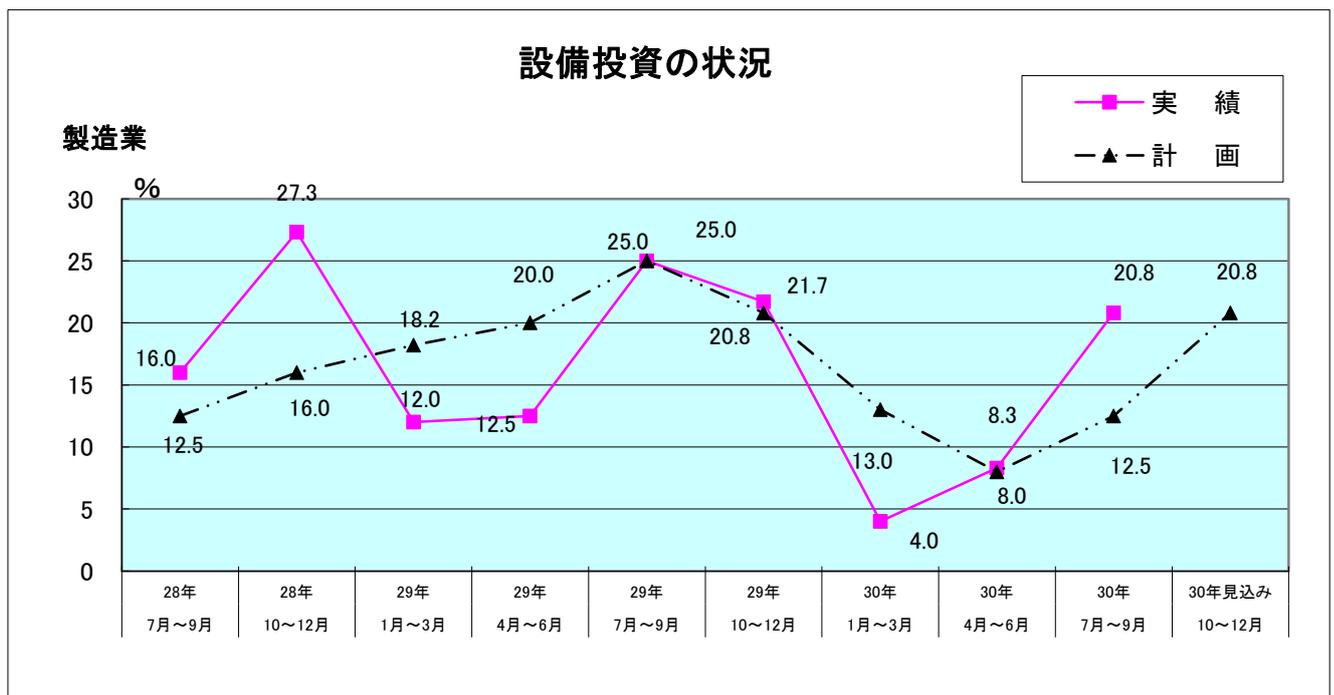


当期の資金繰りのD・Iは、4.2ポイントとなり、前期より改善した。「増加・好転」の企業は横這いであったが、「減少・悪化」の企業が減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業が減少するものの、「減少・悪化」の企業も減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善を見込んでいる。



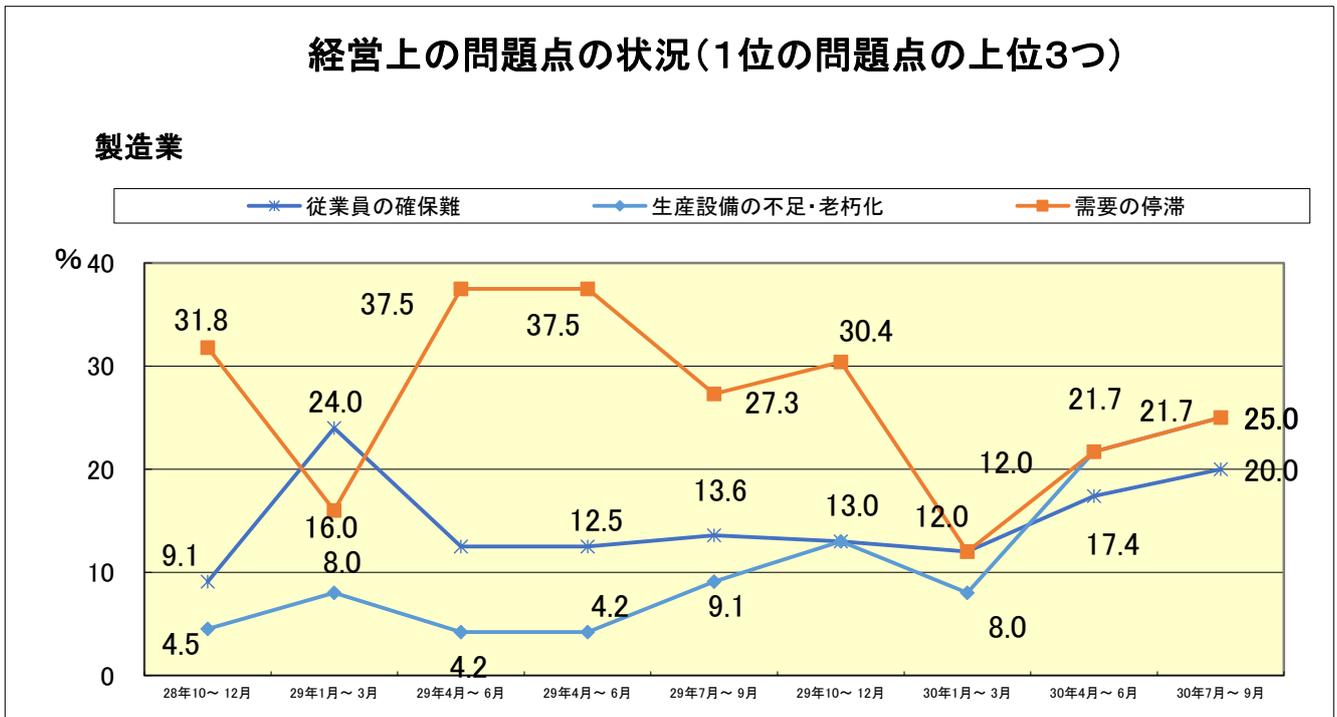
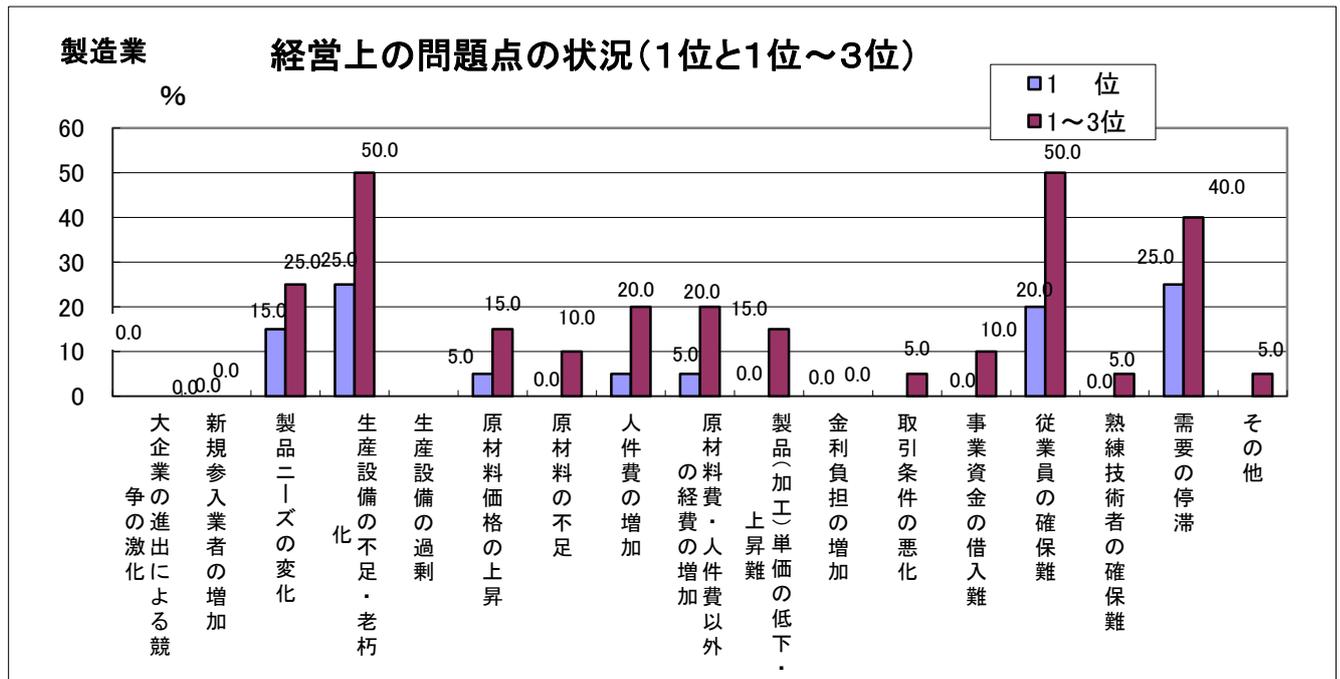
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は12.5%の企業が実施の意向を見せていたが、実績は20.8%となり、計画が実績を上回った。
次の四半期は20.8%の企業が計画している。内容は生産設備等となっている。



(5) 経営上の問題点

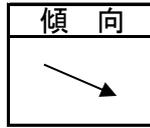
経営上の問題点について回答を求めたところ、(1位グループ)の合計で多かったのは、1位が同率で「生産設備の不足・老朽化」、「需要の停滞」であった。次に「従業員の確保難」となっている。(1位～3位グループ)では、1位が同率で「生産設備の不足・老朽化」、「従業員の確保難」、2位が「需要の停滞」となった。1位グループ、1位～3位グループともに、「従業員の確保難」が経営上の問題点となっており、今回の調査では新しい傾向が見られた。



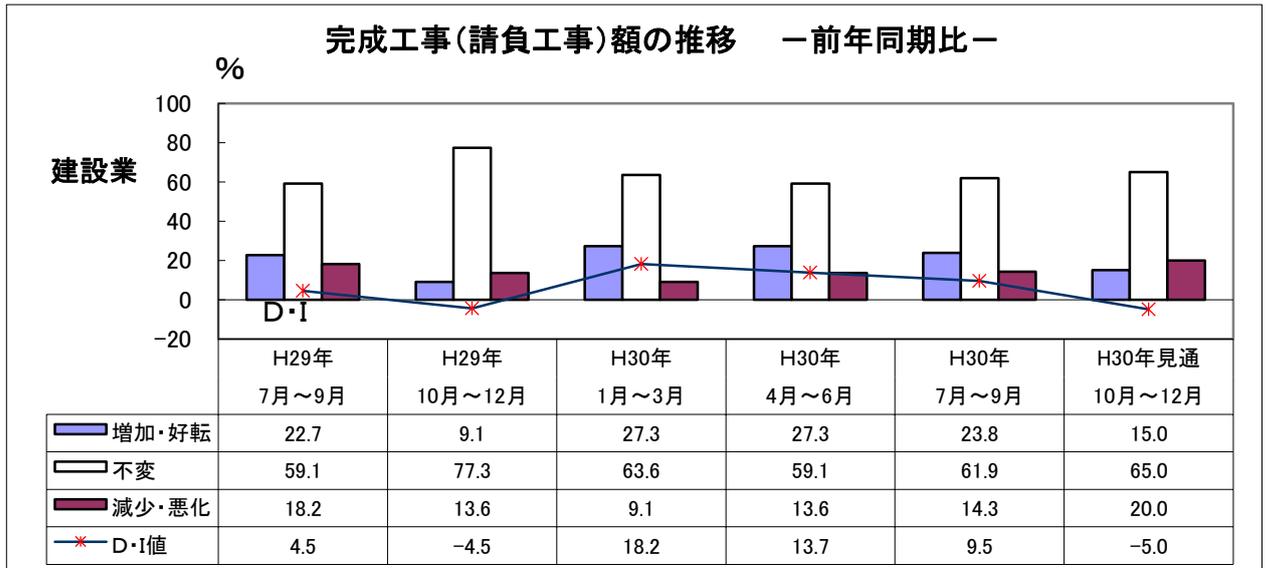
Ⅲ 建設業の景況

(1) 完成工事額の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
うす曇	曇
9.5	▲ 5.0



当期の完成工事額のD・Iは、9.5ポイントとなり、前期の13.7ポイントから悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期については、「減少・悪化」の企業が増加し、「増加・好転」の企業が減少するため、完成工事額のD・Iは、当期より悪化し-5.0ポイントとなっている。

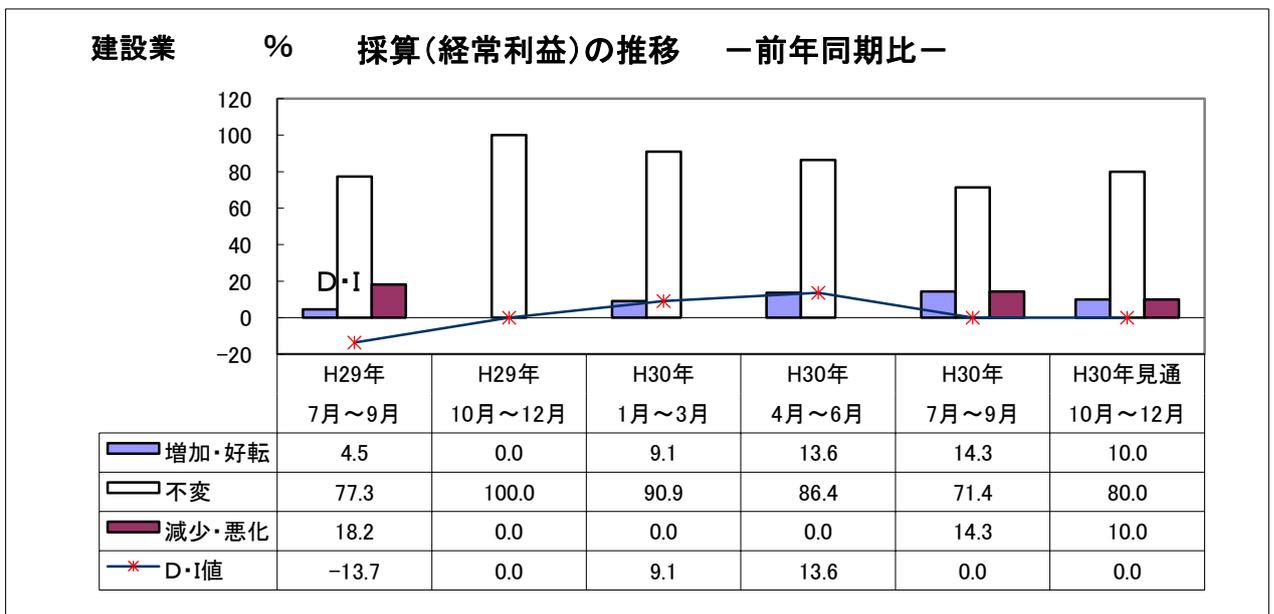


(2) 採算(経常利益)の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
うす曇	うす曇
0.0	0.0



当期の採算のD・Iは、0.0ポイントであった。前期より悪化している。「増加・好転」とする企業はほぼ横ばいであったが、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期は、「増加・好転」とする企業が減少するが、「減少・悪化」とする企業も減少するため、D・Iは、当期と同じ0.0ポイントと見込んでいます。

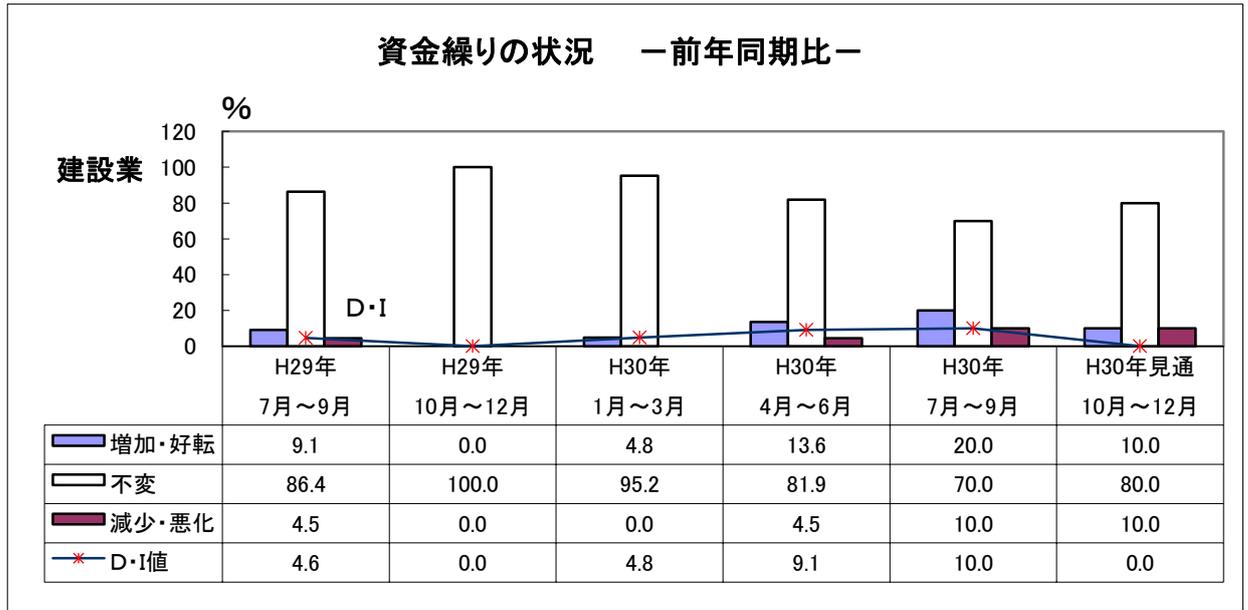


(3) 資金繰りの推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
うす曇	うす曇
10.0	0.0

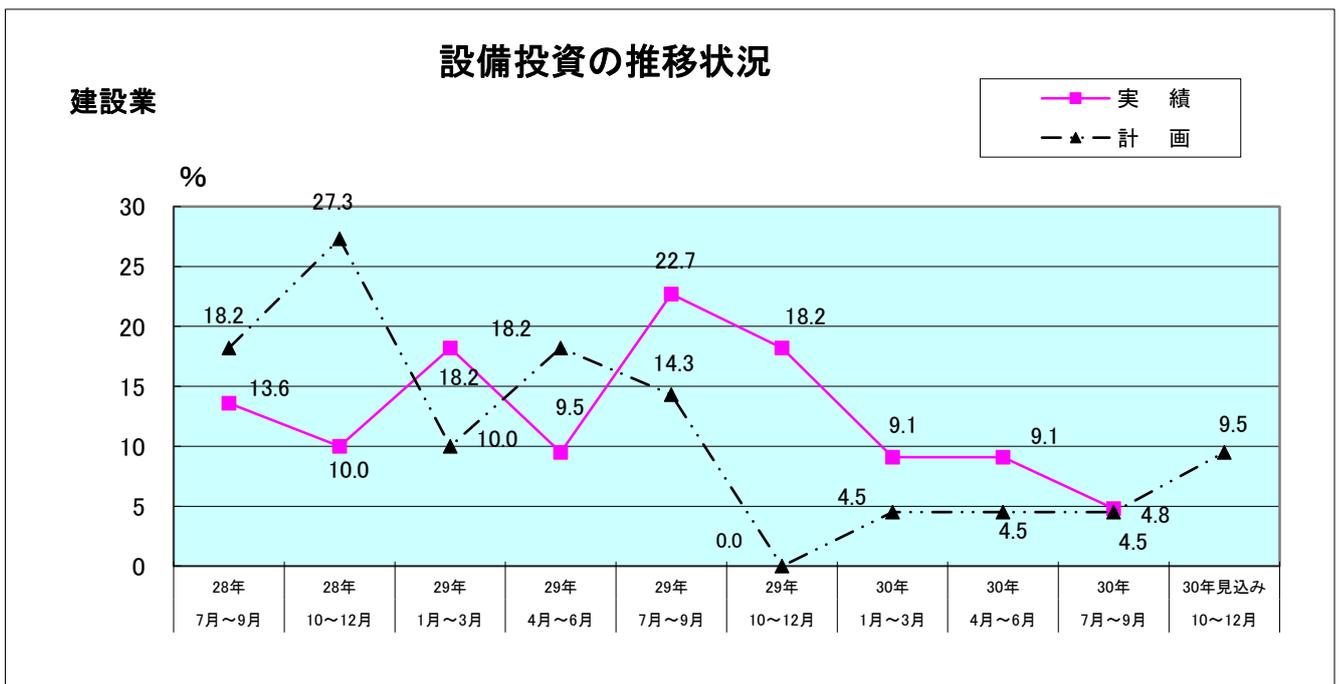


資金繰りのD・Iは10.0ポイントと、前期に比べて若干改善する結果となった。「減少・悪化」とする企業が増加したが、「増加・好転」とする企業も増加したためである。次の四半期については、「減少・悪化」とする企業は横ばいであるが、「増加・好転」とする企業が減少するため、D・Iは、0.0ポイントと悪化を見込んでいる。



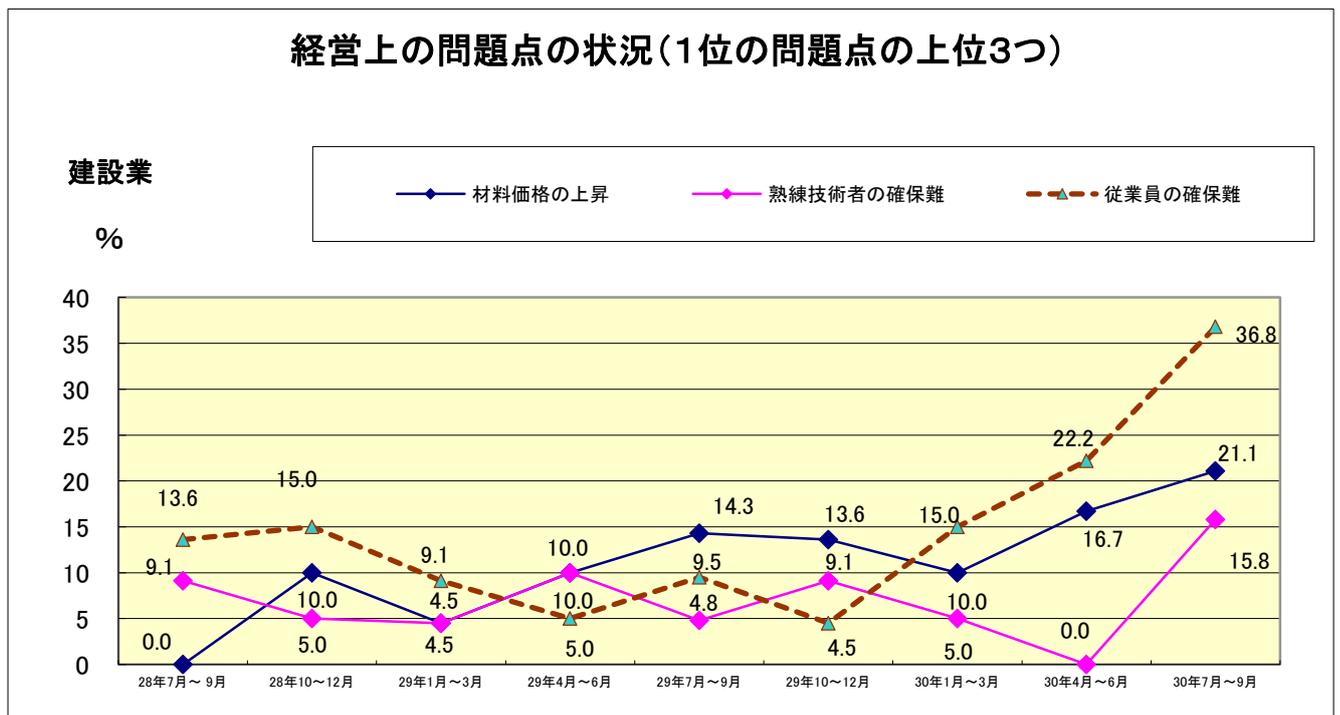
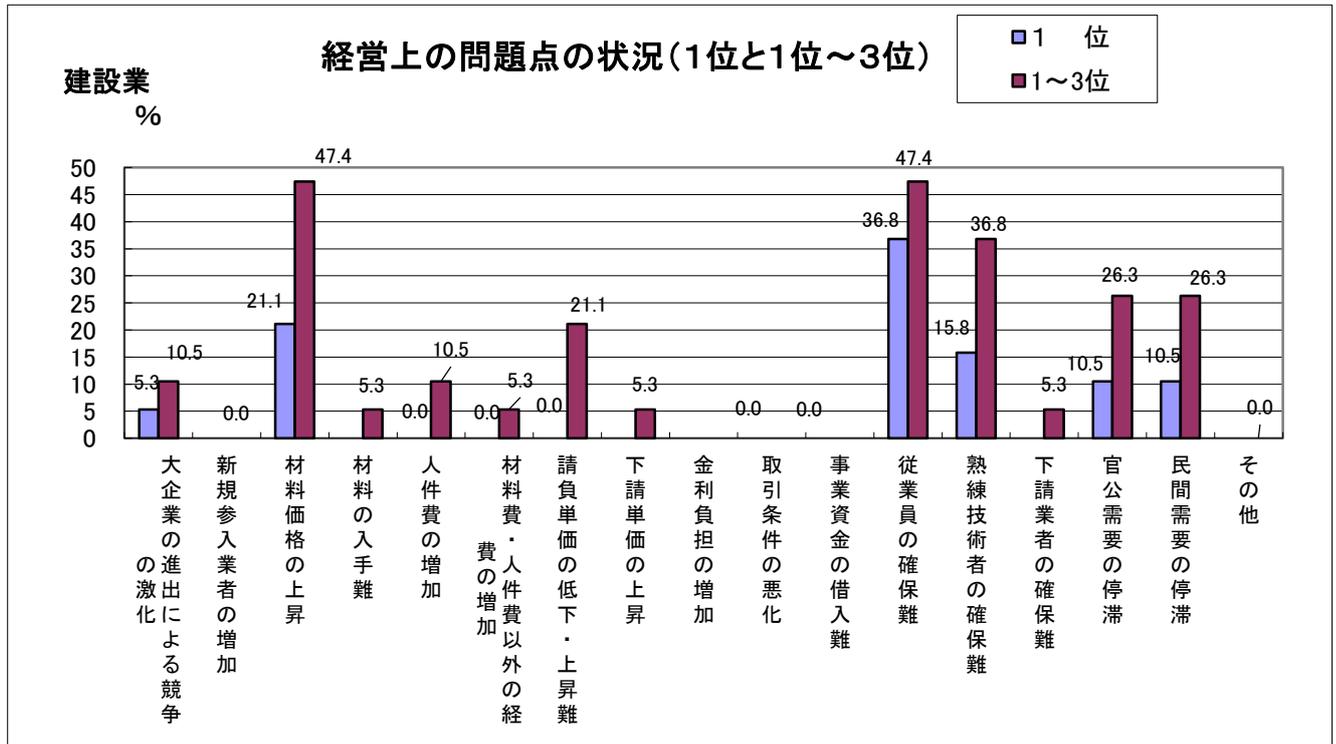
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は4.5%であったが、実際には4.8%の企業が実施し計画を上回った。内容は建物、建設機械、車両運搬具となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は9.5%という結果となっている。



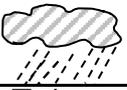
(5) 経営上の問題点

経営上の問題点について、(1位グループ)で回答が多かったのは、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」となった。(1位～3位グループ)では、1位が同率で「従業員の確保難」、「材料価格の上昇」で、2位が「熟練技術者の確保難」であった。今回の調査では「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」が上位に位置付けられており、新しい傾向が見られた。



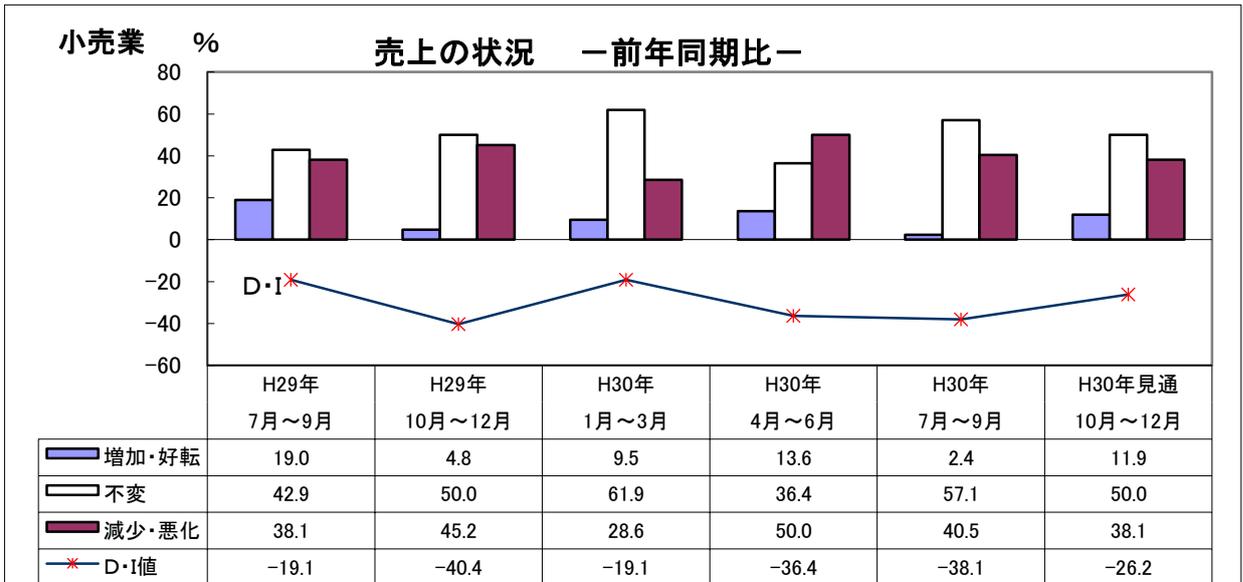
IV 小売業の景況

(1) 売上額の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
	
雨	曇時々雨
▲ 38.1	▲ 26.2

傾向


当期の売上のD・Iは-38.1ポイントで、直前期の-36.4ポイントより悪化した。「減少・悪化」とする企業が減少したが「増加・好転」とする企業が大きく減少したためである。客数で悪化が見られる。次期四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは当期より改善する見込みである。

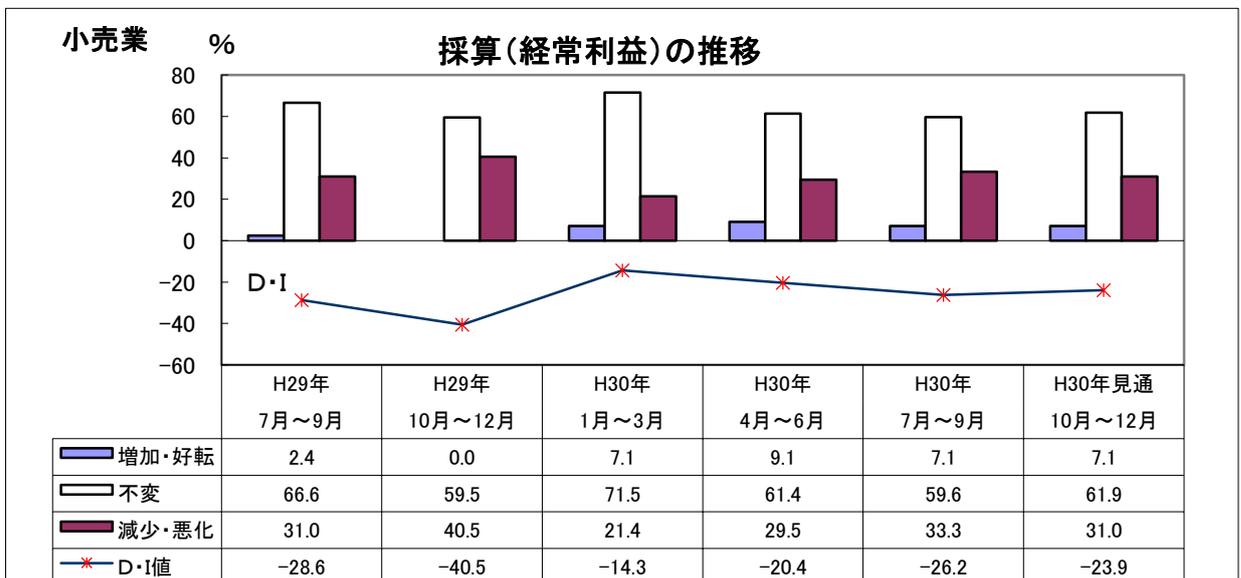


(2) 採算(経常利益)の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 26.2	▲ 23.9

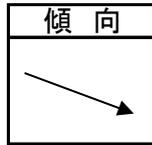
傾向


当期の採算のD・Iは-26.2ポイントで、前期より悪化している。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が当期と横ばいで、「減少・悪化」とする企業が減少するため、D・Iは当期よりも改善する予想となっている。

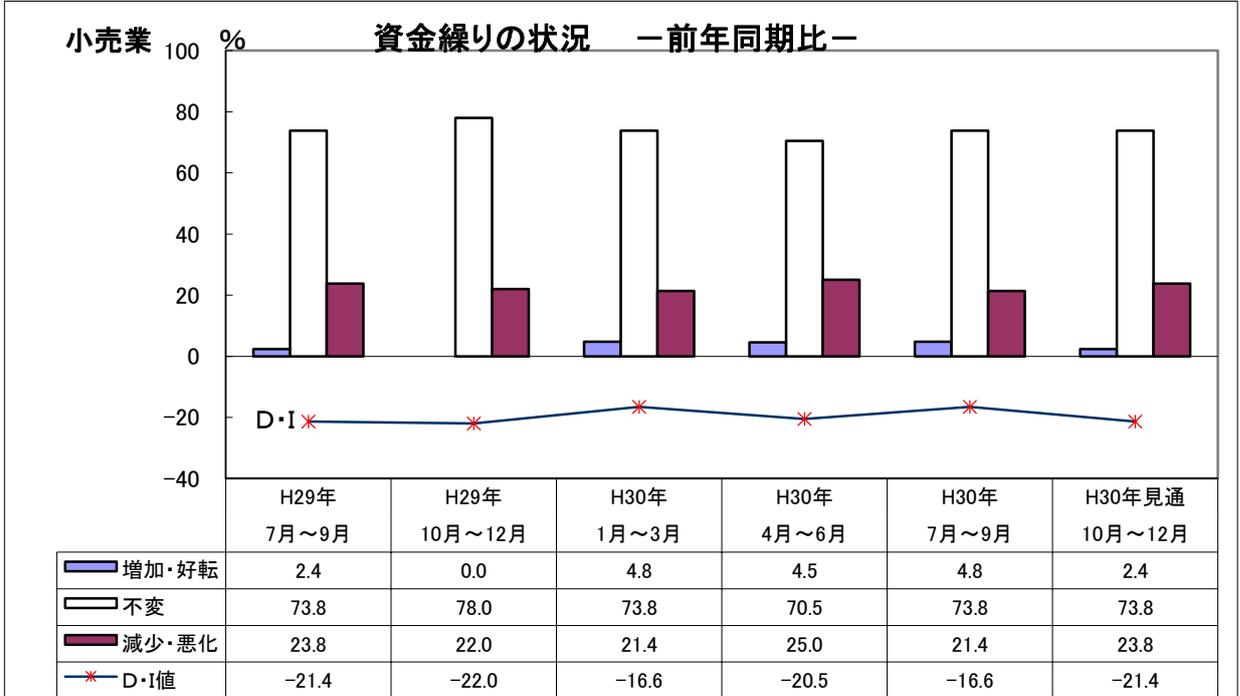


(3) 資金繰りの推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 16.6	▲ 21.4

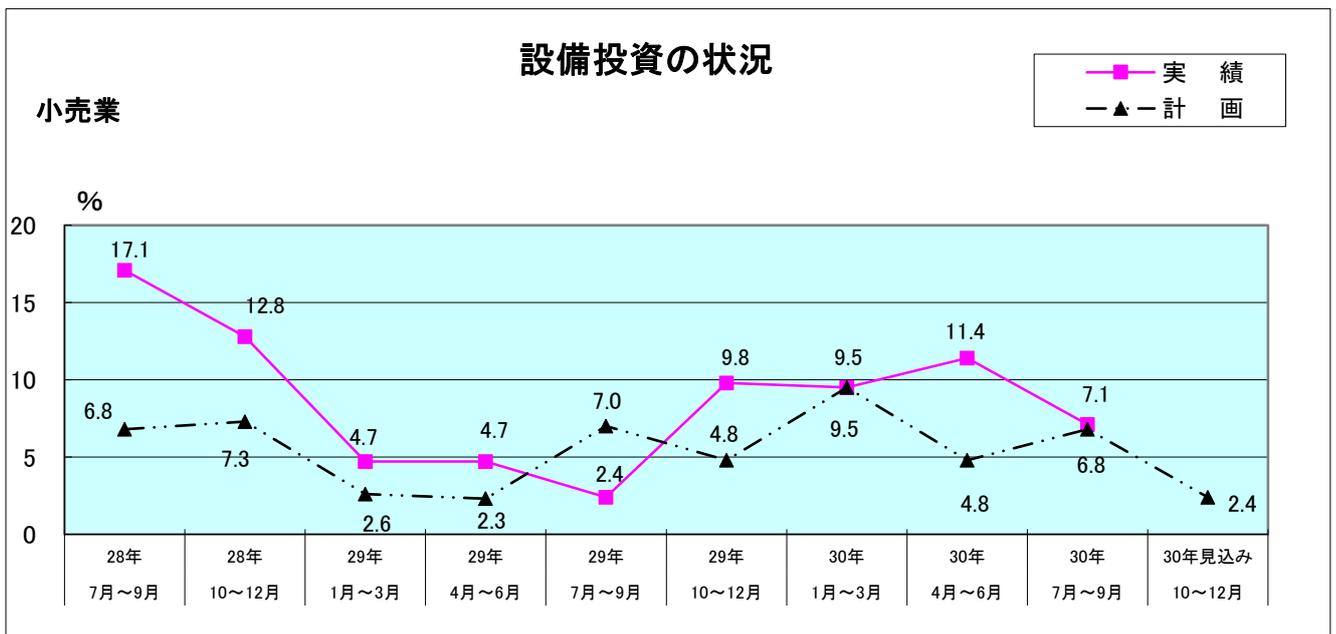


「増加・好転」とする企業はほぼ横ばいであるが、「減少・悪化」の企業が減少するため、当期の資金繰りのD・Iは、-16.6ポイントと前期から改善している。次の四半期は、「減少・悪化」とする企業が増加し、「増加・好転」の企業も減少するため、D・Iは、-21.4ポイントと悪化を見込んでいる。



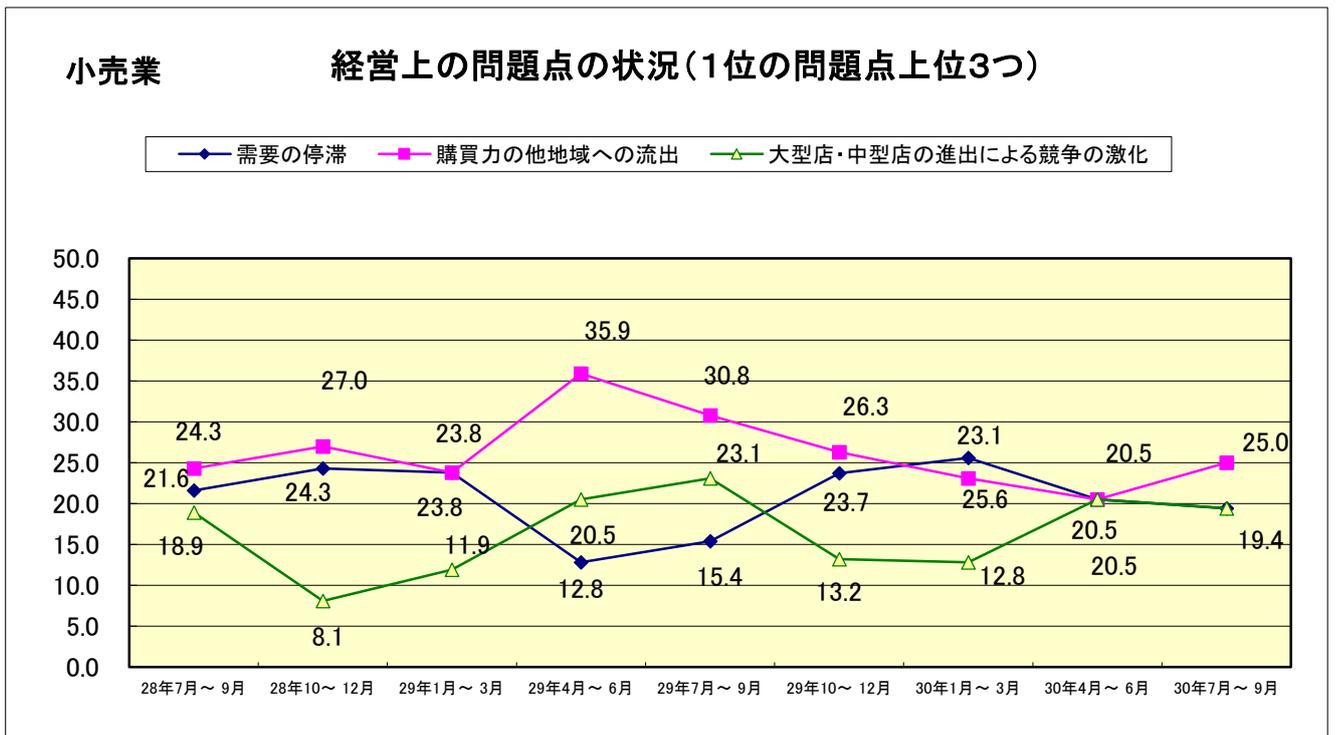
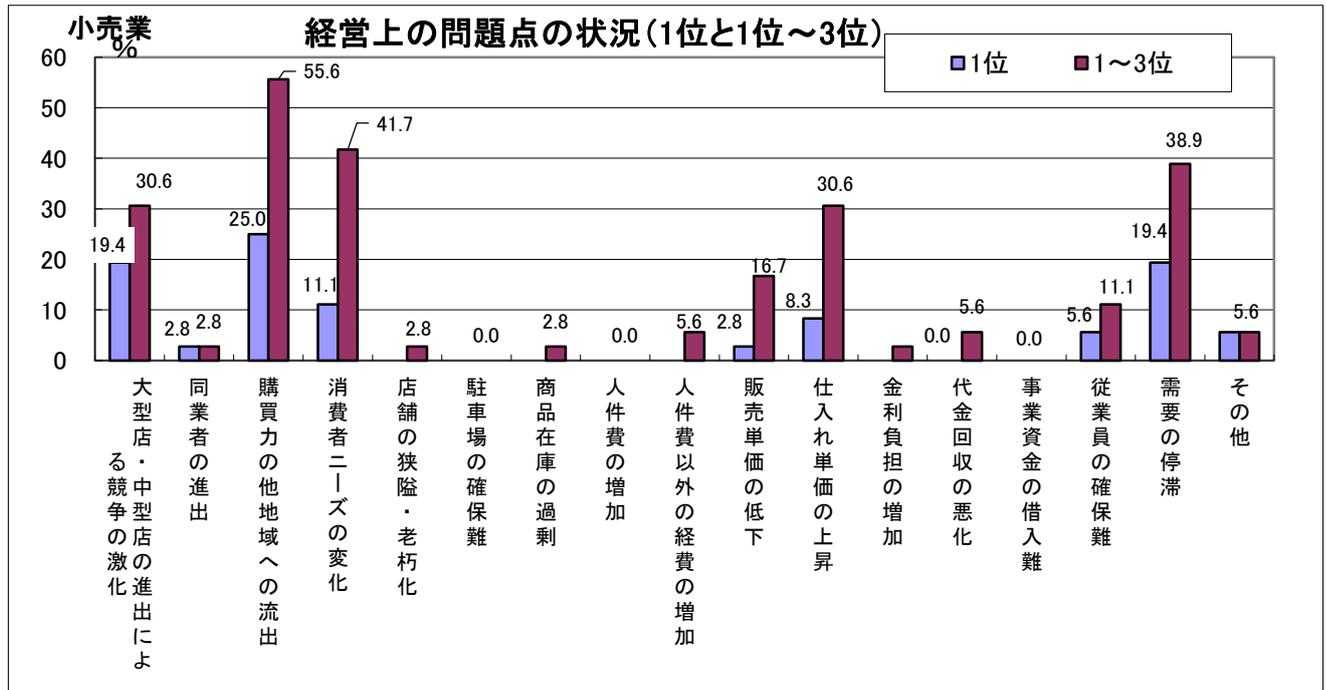
(4) 設備投資の推移

設備投資は6.8%の企業が計画し、実際に実施した企業は7.1%となった。投資対象は、店舗、販売設備、車両運搬具となっている。次の四半期の見通しは、計画が2.4%で、対象はその他となっている



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点について、回答が多かったのは、(1位グループ)では、1位が「購買力の他地域への流出」、2位が同率で「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「需要の停滞」であった。(1位から3位グループ)では「購買力の他地域への流出」が1位で、2位が「消費者ニーズの変化」、3位が「需要の停滞」となっており、1位グループの問題点とほぼ変わりはない。大型店、中型店の改装リニューアルの動きがあり、中小小売業にとって厳しい競争環境が続いている。



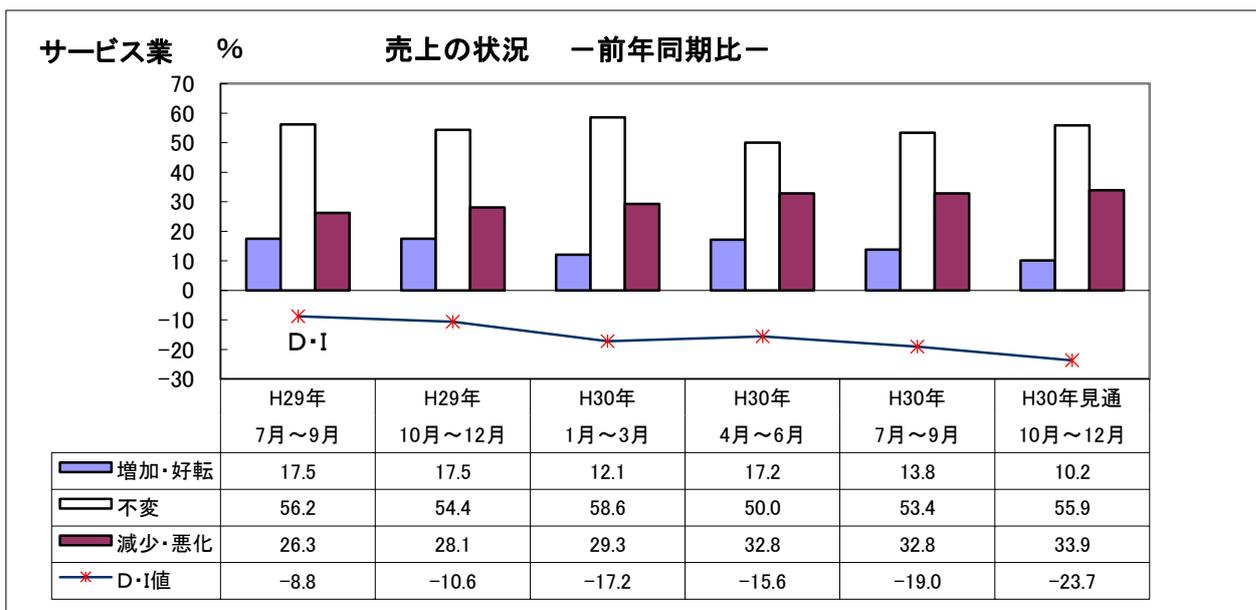
V サービス業の景況

(1) 売上額の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 19.0	▲ 23.7

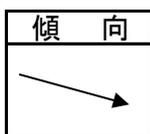


当期の売上のD・Iは、-19.0ポイントと前期に比べ悪化している。「減少・悪化」の企業は前期と横ばいであったが、「増加・好転」の企業が減少したためである。利用客数で悪化している。次の四半期は「減少・悪化」の企業は当期とほぼ横ばいであるが、「増加・好転」の企業が減少するため、D・Iは当期より悪化する。

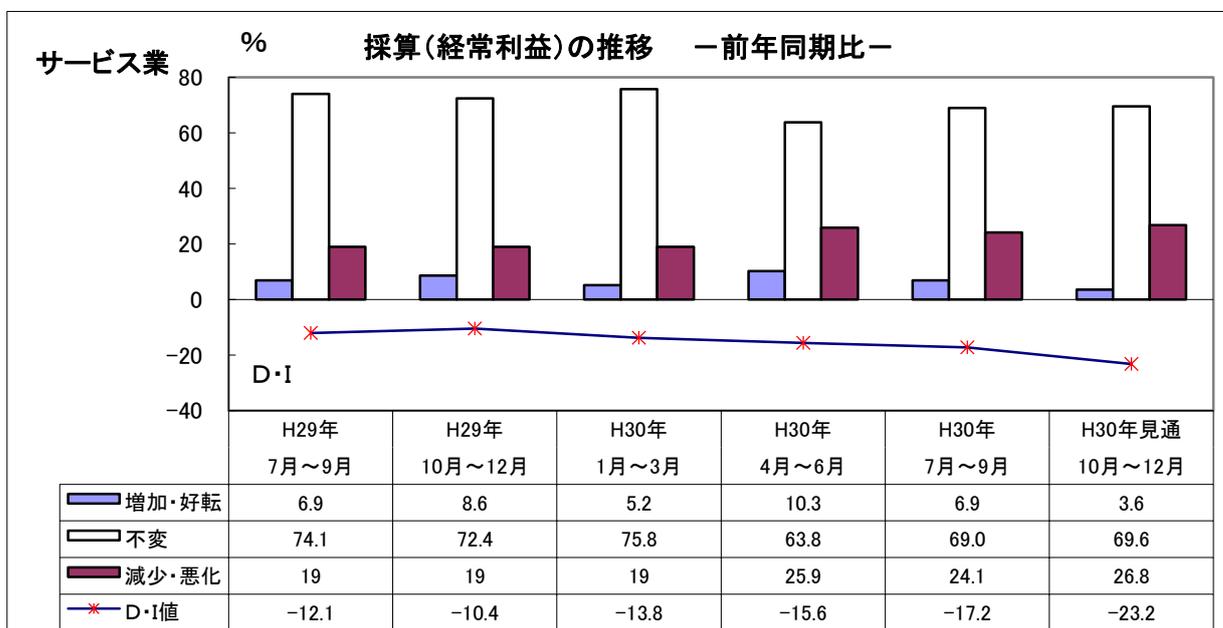


(2) 採算(経常利益)の推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 17.2	▲ 23.2

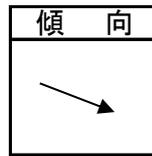


当期の採算のD・Iは、-17.2ポイントで、前期より悪化した。「減少・悪化」の企業は減少したが、「増加・好転」の企業も減少したためである。次の四半期は「減少・悪化」の企業が増加し、「増加・好転」の企業が減少するため、D・Iは当期に比べ悪化する結果となっている。

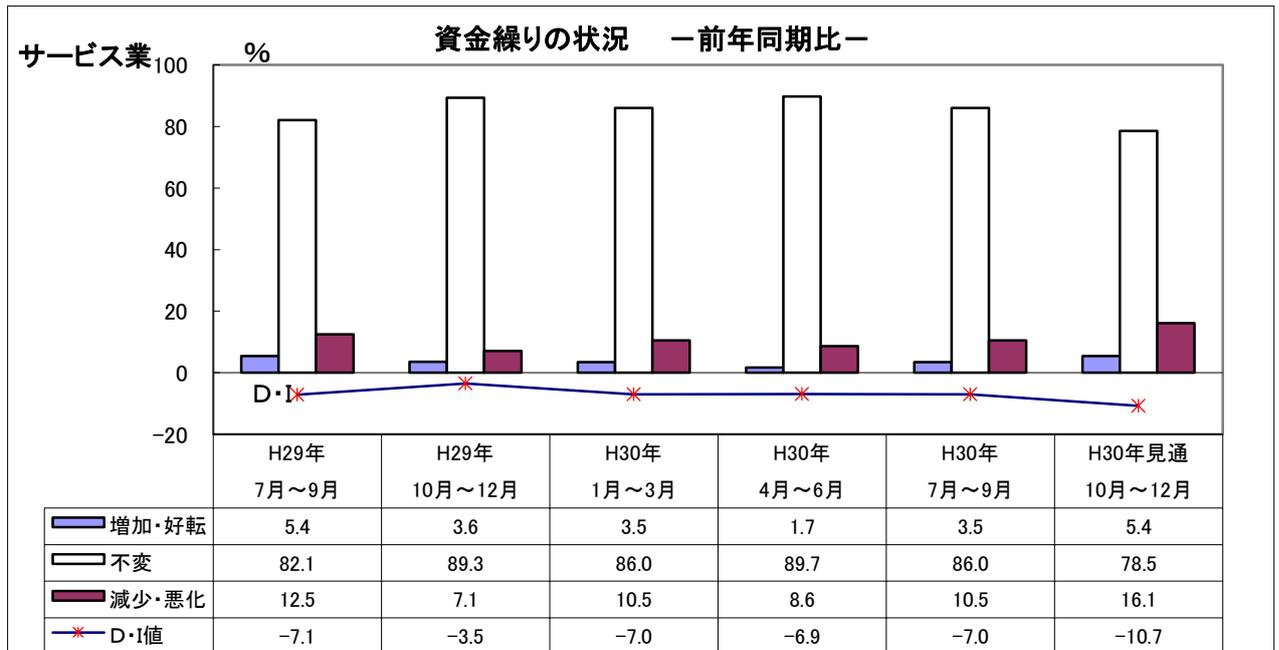


(3) 資金繰りの推移

30年7月～9月 (実績)	30年10月～12月 (見通し)
曇	曇
▲ 7.0	▲ 10.7

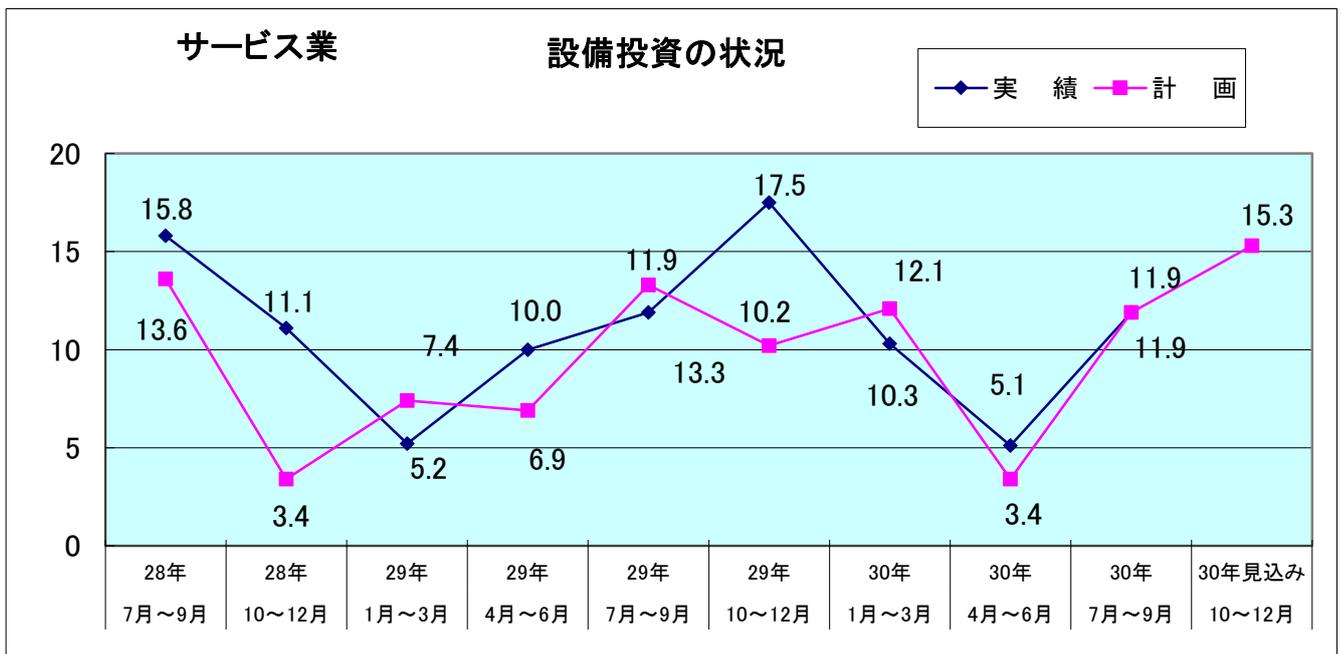


当期の資金繰りのD・Iは、-7.0ポイントと前期とほぼ同じである。「増加・好転」とする企業は増加したが、「減少・悪化」とする企業もほぼ同じ割合で増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加するが、「減少・悪化」の企業も増加するため、資金繰りのD・Iは、当期より悪化する。



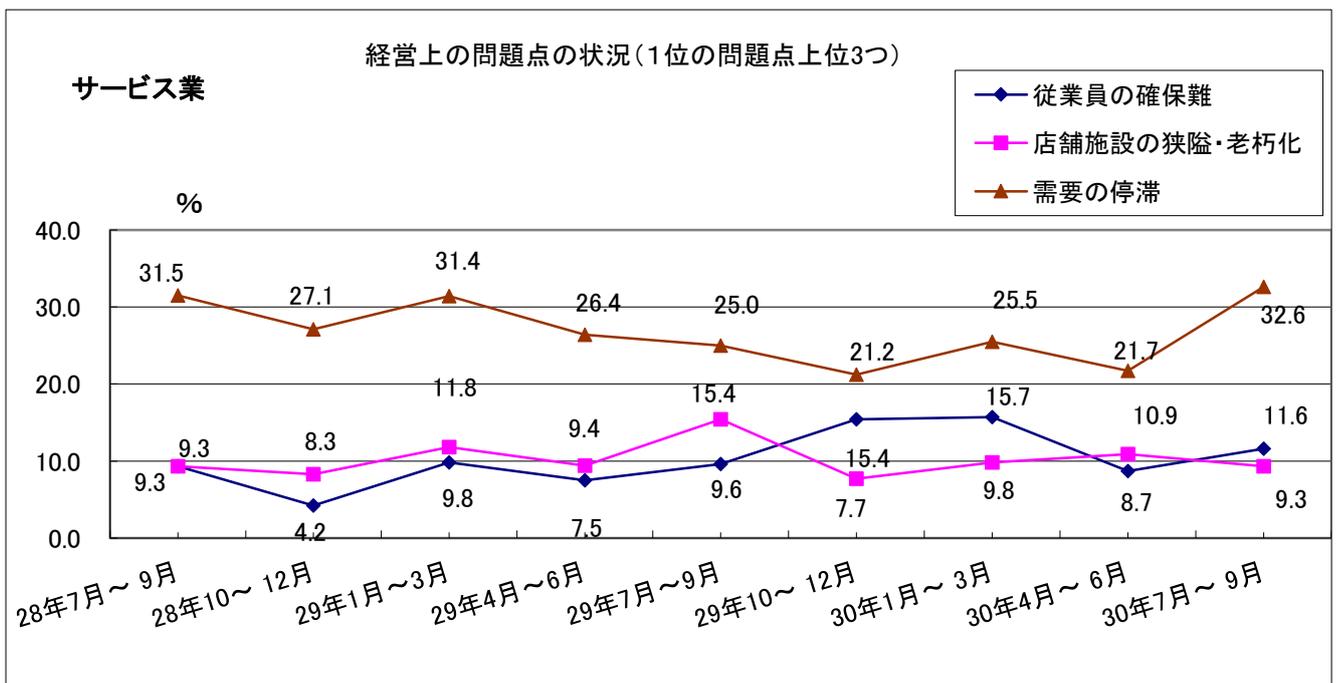
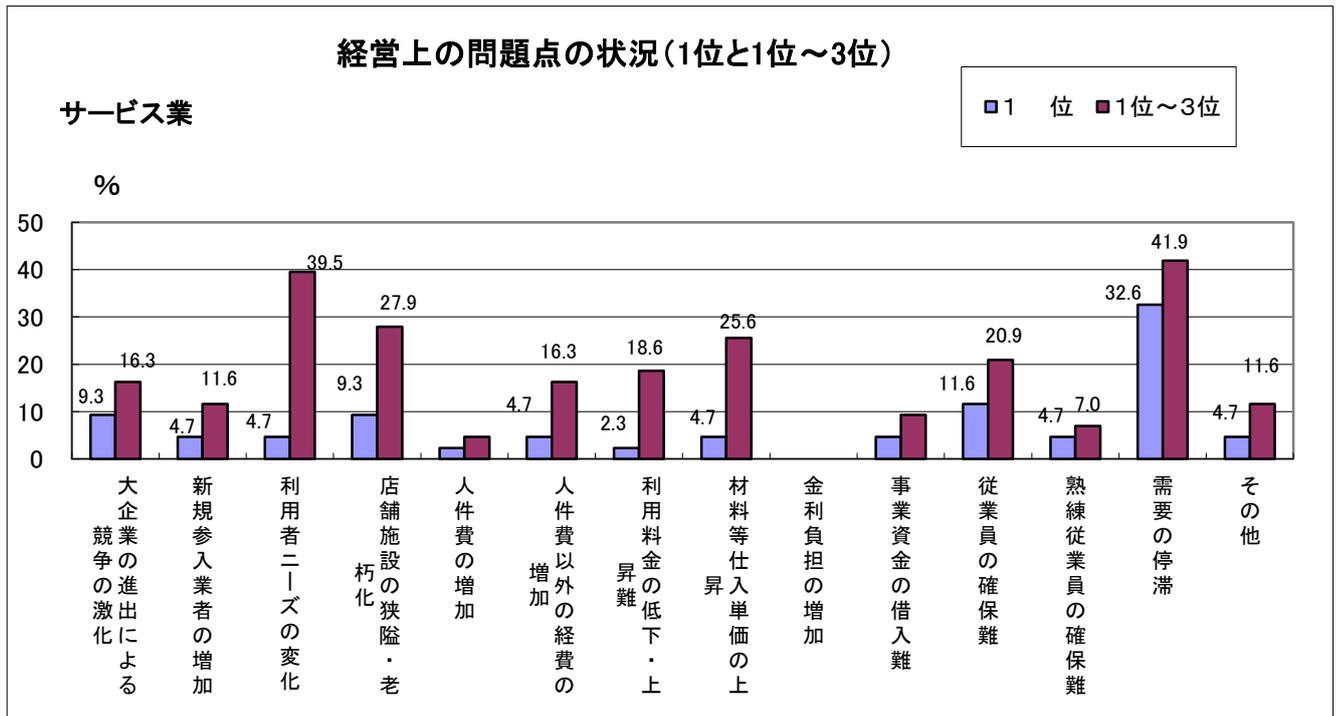
(4) 設備投資の推移

当期は、設備投資を計画していた企業は11.9%であったが、計画通り11.9%の企業が実施した。内容は建物、OA機器となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は、15.3%の企業である。サービス、建物、付帯設備、OA機器となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点(1位グループ)で、回答が多かったものは1位が「需要の停滞」で、2位が「従業員の確保難」、3位が同率で「店舗施設の狭隘・老朽化」、「大企業の進出による競争の激化」となっている。(1位から3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」となっており、(1位グループ)の問題点と傾向は変わらない。今回の調査では、「従業員の確保難」が経営上の問題点として上位に取り上げられていることが注目される。



産業別主要景況項目状況

宮崎県商工会連合会

業種			実績					見通し
			平成29年 7月～9月	平成29年 10月～12月	平成30年 1月～3月	平成30年 4月～6月	平成30年 7月～9月	平成30年 10月～12月
製造業	売上(加工)額	増加・好転	16.7	22.7	12.0	29.2	29.2	21.7
		不変	54.1	36.4	60.0	45.8	41.6	74.0
		減少・悪化	29.2	40.9	28.0	25.0	29.2	4.3
		D・I値	▲ 12.5	▲ 18.2	▲ 16.0	4.2	0.0	17.4
	採算(経常利益)	増加・好転	12.5	21.7	8.0	8.3	12.5	16.7
		不変	66.7	65.3	76.0	75.0	66.7	79.1
		減少・悪化	20.8	13.0	16.0	16.7	20.8	4.2
		D・I値	▲ 8.3	8.7	▲ 8.0	▲ 8.4	▲ 8.3	12.5
	資金繰り	増加・好転	8.3	8.7	12.0	12.5	12.5	8.3
		不変	83.4	78.3	84.0	75.0	79.2	91.7
		減少・悪化	8.3	13.0	4.0	12.5	8.3	0.0
		D・I値	0.0	▲ 4.3	8.0	0.0	4.2	8.3
設備投資	計画	25.0	20.8	13.0	8.0	12.5	20.8	
	実行	25.0	21.7	4.0	8.3	20.8		
建設業	完成工事(請負工事)額	増加・好転	22.7	9.1	27.3	27.3	23.8	15.0
		不変	59.1	77.3	63.6	59.1	61.9	65.0
		減少・悪化	18.2	13.6	9.1	13.6	14.3	20.0
		D・I値	4.5	▲ 4.5	18.2	13.7	9.5	▲ 5.0
	採算(経常利益)	増加・好転	4.5	0.0	9.1	13.6	14.3	10.0
		不変	77.3	100.0	90.9	86.4	71.4	80.0
		減少・悪化	18.2	0.0	0.0	0.0	14.3	10.0
		D・I値	▲ 13.7	0.0	9.1	13.6	0.0	0.0
	資金繰り	増加・好転	9.1	0.0	4.8	13.6	20.0	10.0
		不変	86.4	100.0	95.2	81.9	70.0	80.0
		減少・悪化	4.5	0.0	0.0	4.5	10.0	10.0
		D・I値	4.6	0.0	4.8	9.1	10.0	0.0
設備投資	計画	14.3	0.0	4.5	4.5	4.5	9.5	
	実行	22.7	18.2	9.1	9.1	4.8		
小売業	売上額	増加・好転	19.0	4.8	9.5	13.6	2.4	11.9
		不変	42.9	50.0	61.9	36.4	57.1	50.0
		減少・悪化	38.1	45.2	28.6	50.0	40.5	38.1
		D・I値	▲ 19.1	▲ 40.4	▲ 19.1	▲ 36.4	▲ 38.1	▲ 26.2
	採算(経常利益)	増加・好転	2.4	0.0	7.1	9.1	7.1	7.1
		不変	66.6	59.5	71.5	61.4	59.6	61.9
		減少・悪化	31.0	40.5	21.4	29.5	33.3	31.0
		D・I値	▲ 28.6	▲ 40.5	▲ 14.3	▲ 20.4	▲ 26.2	▲ 23.9
	資金繰り	増加・好転	2.4	0.0	4.8	4.5	4.8	2.4
		不変	73.8	78.0	73.8	70.5	73.8	73.8
		減少・悪化	23.8	22.0	21.4	25.0	21.4	23.8
		D・I値	▲ 21.4	▲ 22.0	▲ 16.6	▲ 20.5	▲ 16.6	▲ 21.4
設備投資	計画	7.0	4.8	9.5	4.8	6.8	2.4	
	実行	2.4	9.8	9.5	11.4	7.1		
サービス業	売上額	増加・好転	17.5	17.5	12.1	17.2	13.8	10.2
		不変	56.2	54.4	58.6	50.0	53.4	55.9
		減少・悪化	26.3	28.1	29.3	32.8	32.8	33.9
		D・I値	▲ 8.8	▲ 10.6	▲ 17.2	▲ 15.6	▲ 19.0	▲ 23.7
	採算(経常利益)	増加・好転	6.9	8.6	5.2	10.3	6.9	3.6
		不変	74.1	72.4	75.8	63.8	69.0	69.6
		減少・悪化	19.0	19.0	19.0	25.9	24.1	26.8
		D・I値	▲ 12.1	▲ 10.4	▲ 13.8	▲ 15.6	▲ 17.2	▲ 23.2
	資金繰り	増加・好転	5.4	3.6	3.5	1.7	3.5	5.4
		不変	82.1	89.3	86.0	89.7	86.0	78.5
		減少・悪化	12.5	7.1	10.5	8.6	10.5	16.1
		D・I値	▲ 7.1	▲ 3.5	▲ 7.0	▲ 6.9	▲ 7.0	▲ 10.7
設備投資	計画	13.3	10.2	12.1	3.4	11.9	15.3	
	実行	11.9	17.5	10.3	5.1	11.9		
産業全体	売上高		▲ 9.0	▲ 18.4	▲ 8.5	▲ 8.5	▲ 11.9	▲ 9.4
	採算		▲ 15.7	▲ 10.6	▲ 6.8	▲ 7.7	▲ 12.9	▲ 8.7
	資金繰り		▲ 6.0	▲ 7.5	▲ 2.7	▲ 4.6	▲ 2.4	▲ 6.0
	業況		▲ 4.3	▲ 7.9	▲ 4.7	▲ 1.2	▲ 9.9	▲ 2.5

中小企業景況調査報告書

平成30年10月発行

宮崎県商工会連合会

〒880-0013

宮崎市松橋2丁目4番31号

宮崎県中小企業会館2階

TEL 0985-24-2055(代表)

FAX 0985-25-0036

